

陸軍士官學校編纂
兵要地誌

大日本之部
陸中

卷之三十二

3

189

東 京 國 書 館				
類	屬	函	架	冊
		三	七	一 六 九



兵要地誌 大日本之部卷之三十二 目錄

陸中國誌

總論

一丁

山論

二丁

北境脈

二丁

西境脈

四丁

南境脈

六丁

中央脈

八丁

水論

灌域ノ區劃

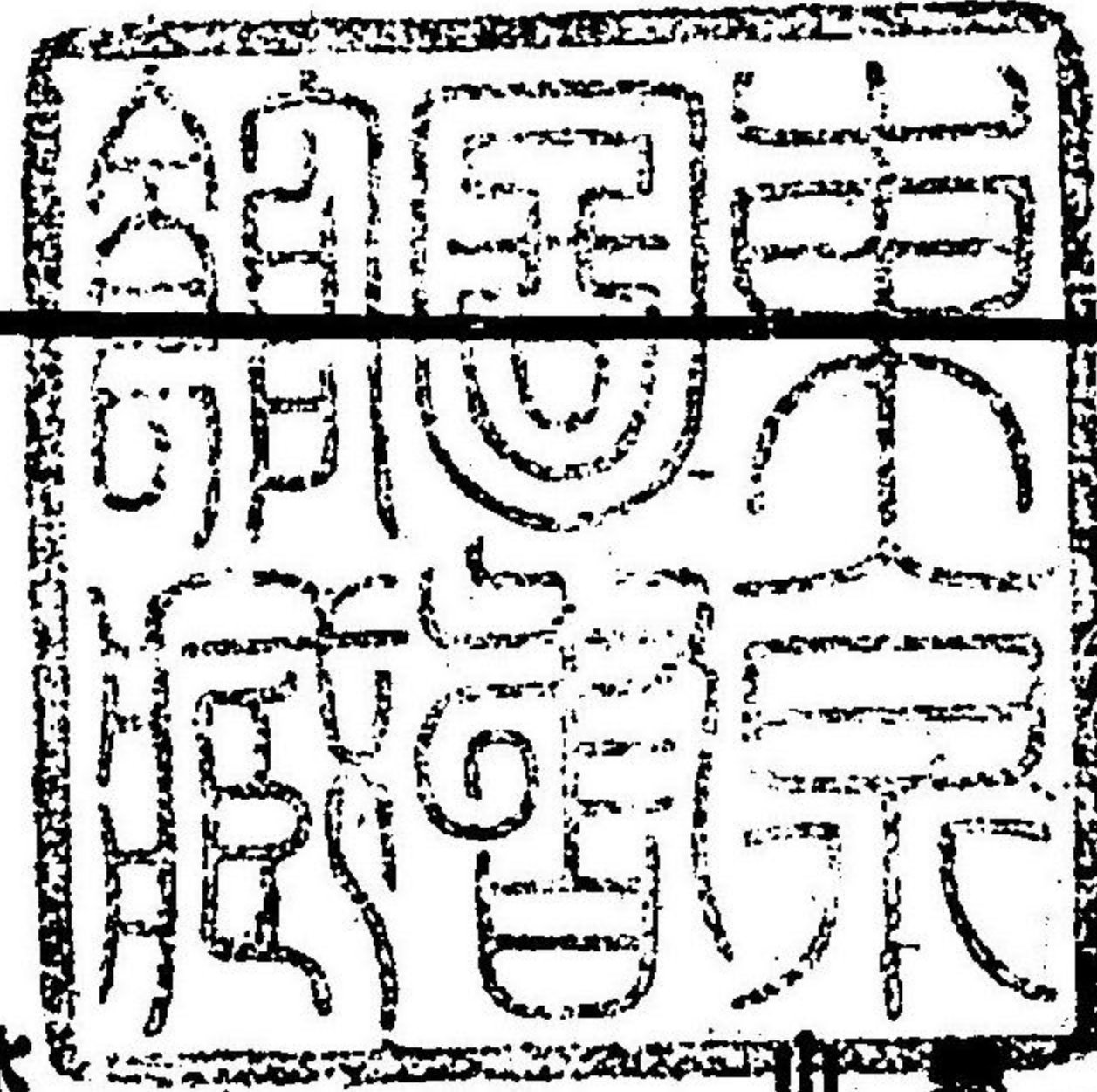
十一丁

北上河ノ灌域

地勢總括

十二丁

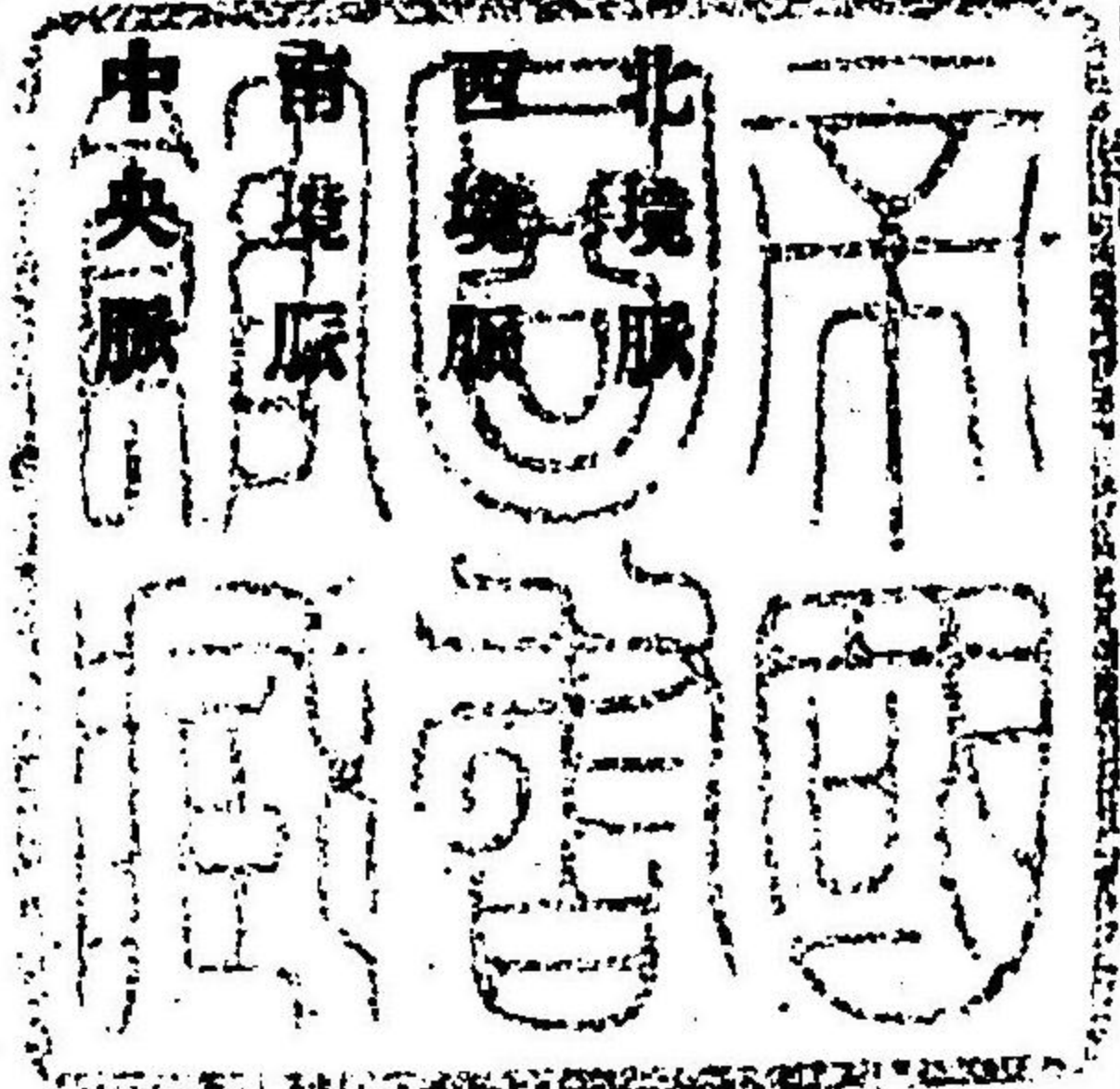
No. 9007



兵要地誌 大日本之部 卷之三十二 目錄

陸中國誌

水陸 山陸



北境脈
西境脈
南境脈
中央脈
北上河ノ瀧域
瀧域ノ區劃
地勢總括

一 二 二 四 六 八 十 十二
丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁



北上河ノ水路	十二丁
右朝流	十六丁
左朝流	十九丁
東流ノテ直ニ海ニ注ノ諸川ノ濶域	二十三丁
地勢總括	二十三丁
諸川ノ水路	二十三丁
龍代川ノ濶域	二十五丁
馬淵川ノ濶域	二十六丁
交通路	二十七丁
沿革略史	二十九丁

兵要地誌

大日本之部卷之三十二

陸中國誌

總論

陸軍教授三木信近 纂述

陸中國ハ、東山道ノ東北ニ位ス、往時ハ陸奥國ノ一部ヲ爲シ、南部ト稱セリ、明治元年、陸奥ヲ割テ五國ヲ置ク、陸中其一ニ居ル、北緯三十八度四十六分ヨリ四十度三十分ニ分ニ亘リ、東經零度四十九分ヨリ二度十八分ニ達ス、其疆界、北ヨリ西ハ陸奥・羽後ニ、南ハ陸前ニ接シ、東一面大平洋ニ面ス、廣袤、東西約三十七里、南北約三十三里、廣所約五十里、之ヲ劃シテ十八郡トス、九戸郡ハ東北隅ニ挺出シ、南・北二郡ニ分ツ、鹿角郡ハ西北隅ニシテ、陸奥・羽

後ノ間ニ伸出ス、岩手郡ハ北陸奥ニ接シ、西羽後ニ交ル、南・北二郡ニ分ツ、紫波郡ハ岩手ノ南ニ在リ、稗貫郡ハ紫波ノ南ニ連リ、和賀郡ハ稗貫ノ南ニシテ、其西部羽後ニ張出シ、磐折シテ岩手ニ連ナル、分テ東・西二郡トス、閉伊郡ハ岩手・稗貫・和賀ノ東ニシテ、東方海ニ濱ス、州内ノ最大ノ郡ナリ、分テ東・西・南・北・中ノ五郡トス、江刺郡・膽澤郡ハ相並ヒ和賀ノ南ニ連ル、磐井郡ハ江刺・膽澤ノ南ニシテ、州ノ南境ナリ、分テ東・西二郡トス、鹿角一郡秋田縣ニ編シ、餘ハ皆岩手縣ニ隸ス、人口五十四萬八千五百五十一、明治二十四年ノ全國ノ形狀、北方陸奥ノ凸脹ヲ受ケテ、左右ニ長角ヲ伸出シ、恰モ牛首ノ如シ、地勢陸奥ノ大山脈二岐ニ分レテ南走ス、其西スル者ハ羽後ヲ劃界シ、其

東スル者ハ中央ニ連結シ、北上河其中間ニ南流シ、國道線第六之ニ沿フ、全地原濕曠遠ニシテ礫礫多ク、盛岡以南ハ稍沃壤ナリ、閉伊・九戸ハ東海ニ瀕シ、魚鹽ノ利アリ、氣候極暑九十二度、極寒二十度、物産ノ主ナル者 鑛物ハ金、銀、銅、鉄、鉛、水晶、硯石、砥石、硫黃、石灰、石炭、磁石、植物ハ米、大小豆、荏粒、藍、烟草、苧麻、蘭草、藥草數種、紅花、紫草、楮、漆、檜、檜、葡萄、片栗、松茸、椎茸、鹿角菜、昆布、百合、動物ハ馬、牛、熊、猴、蠶種、鮭、鱒、鮎、鱈、鱈、鮭、鮭、海參、帆立貝、製造物ハ生絲、真綿、南部紬、縮緬、太布、茜染木綿、紫染木綿、紙、筆、蕨繩、吳座、壘表、鐵瓶、陶器、煉火石、鋸、樺、漁網、傘、菅笠、魚粕、製造食物ハ鹽、白酒、飴、温飩、粟、粟、蕨粉、乾鰯、乾鰯等ナリ

山論

陸奥ノ大山脈、國中コ入り分レテ兩岐トナリ、蜿蜒南ニ走ル、一ハ羽後ヲ限リ、陸前・羽後・本州三國ノ交界點ニ至テ一岐脈ヲ東登シ、陸前ヲ分割ス、一ハ凹彎ヲ爲シテ陸奥境ヲ繞リ、更ニ一大岐ヲ分テ、國ノ中央ヲ貫キテ陸前境ノ山脈ニ連ナル、是ヲ以テ州内ノ山脈ヲ大別シテ四大山脈トス、曰北境脈・曰西境脈・曰南境脈・曰中央脈是レナリ

北境脈

北境ノ山脈ハ、陸奥・羽後・本州三國ノ交界點ナル清永峠ヨリ起リ、暫ラシク東シテ戸來山ニ連ル、鹿角郡ニ在テ郷俗之ヲ總稱シテ北境ト云フ、山中ニ湖南東西南北約四里アリ

十和田湖

十和田湖ト云フ、陸奥コ跨ル、是ヨリ南ニ向ヒ陸奥ノ三戸・二戸ノ郡界ヲ劃シ、來滿嶽・四角嶽ヲ領シ、矢峯嶽ニ至テ東ニ轉シ、七時雨山ヲ領シ、黒森山ニ至テ折レテ北ニ向ヒ、折爪山ノ北ニ至テ又東ニ轉シ、終ニ種市嶽ニ連ル、種市嶽ハ、海濱ニ竦立シテ群山ノ表ニ出ツ、故ニ航海者以テ目標トス、此山脈ヲ踰フル山徑數條アリ、左ニ枚舉ス

第一 鹿角通ハ、四角嶽ノ北ヲ通シ、大湯村鹿角ヨリ關

澤原鹿角ヨリニ出ツ、山中四時風烈シク、坂路曲折人馬

共ニ勞ル、尤、暮秋ヨリ春末ニ至ルマテ積雪行ヲ絶ツト云フ

第二 鹿角街道ハ、湯瀬村鹿角ヨリ田山驛或ハ兄川驛

二共戸ニ陸奥ニ通ス、縣道ナリ、天正十九年、九月、政實、福岡、戸陸奥ニニ據テ叛ス、秀吉、秀次ニ命シ之ヲ討タシム、當時、羽州ノ軍、此道ヨリ進ムト云フ

第三 松尾越ハ、松尾驛北岩ヨリ、細野驛陸奥ニ通ス、縣道ナリ

第四 七時雨越ハ、寺田驛北岩ヨリ、荒屋驛陸奥ニ通ス、縣道ナリ、第三、第四ノ二道ハ相合シ、第二道ニ連ナル、盛岡ヨリ、津輕ニ達スル直路ナリ、津輕街道ト稱ス

第五 中山峠ハ、北上河ノ水源ニシテ、沼宮内驛北岩ヨリ、中山驛陸奥ニ通ス、國道線第六ナリ

第六 觀音林驛北九ヨリ、福岡驛陸奥ニ通ス、縣道ナリ

第七 觀音林驛上ヨリ、市澤驛陸奥ニ通ス、縣道ナリ、第六、第七ハ之ヲ福岡通ト總稱ス、國道線福岡ヨリ岐路ヲ分テ、本州北九北九郡ノ西北隅ヲ貫キ、直ニ八北九戸陸奥ニ往來スル捷路ナリ、故ニ又八戸街道ト云フ

第八 田代越ハ、輕米驛北九ヨリ、田代村陸奥ニ出ツ、里道ナリ

第九 横濱道ハ、海岸ニ沿フ、久慈南九ヨリ、八戸陸奥ニ至ル縣道ナリ

西境脈

西境脈ハ、陸奥・羽後界ノ清水峠ヨリ南ニ連亘シテ、鹽澤山ニ至ルマテ、能代川上谷ノ西境ヲ擁ス、郷俗之ヲ總稱シテ西境ト云フ、次テ本土ノ中央水界線ニ屬シ、峻嶽崇

御駒嶽

和賀嶽

嶺、重疊駢列シ、以テ須川嶽ニ至リ、陸前境ノ栗駒山ニ連
 ナル、脈中ノ高山ヲ御駒嶽トス、四時雪ヲ戴キ人跡未
 到ラス、和賀嶽トス、嶺巖聳拔ス、此ニ登レハ、奥・羽二州一
 目ノ中ニアリ、須川嶽トス、州ノ西南隅ニ在リ、羽後・陸前
 ニ跨ル、其羽後ニ亘ルヲ駒嶽、陸前ニ亘ルヲ栗駒山、本州
 ニ亘ルヲ須川嶽トス、山脈長大險峻、之ヲ險フル山徑甚
 寡シ、左ニ之ヲ掲ク

第一 津經街道ハ、松山村鹿角ヨリ十二所村羽後秋
 出ッ、能代川ノ流下スル山口ヲ達ス、秋田縣トス
 第二 仙岩峠ハ、一ニ國見峠ト云フ、橋場驛南岩ヨリ生
 保内驛北岩仙ニ通ス、秋田街道ト稱ス、縣道ナリ、險巖
 絶壁、羊腸ノ磴道ニシテ、左右數百丈ノ幽谷ニ墮ク、故

ニ牛馬通スル能ハス、冬月ハ積雪行ヲ絶ッ

第三 白木峠ハ、越中畑驛西和ヨリ小松川驛鹿羽平ニ

通ス、縣道ナレトモ甚險阻ナリ、是ヨリ南ニ古道アリ秀

衝道ト號ス、最平夷ナリ、然レモ大ニ迂遠ナルヲ以テ、

古世白木峠ヲ開クト云フ、越中畑ニ南部ノ關址アリ、

小松川ニ佐竹ノ關址アリ

第四 五里峠ハ、下嵐江村鹿澤ヨリ手倉川原村鹿羽雄

ニ出ッ、里道ナリ

此山脈ヨリ支出シテ、國內ニ蟠結スル岐脈數條アリ、北
 方ヨリ透次ニ臚列ス、其一御駒嶽ノ北ヨリ岐分スル者
 ハ、南北岩手ノ郡界ヲ劃シ、東南ニ斜伸ス、脈中ノ高山ヲ
 岩鷲山トス、巍然碧天ニ聳拔ス、形富士ニ似タリ故ニ一

岩鷲山

ニ南部富士ト稱シ、又岩手山ト名ク、山頂ニ噴火口アリ、
 硫黄ノ氣毎ニ升騰ス、其東北ハ地勢下走シテ原野遠ク
 連ル、其二和賀嶽ノ北ヨリ岐分スル者ハ、南走シテ西和
 賀ト南岩手・稗貫、及東和賀トノ郡界ヲ劃ス、故ニ西和賀
 郡ハ周圍山脈ヲ以テ纏ヒ、地形風土別ニ一小世界ヲ爲
 ス、之ヲ澤内ト云フ、山路三アリ、一ヲ山伏峠トス、南川ノ
 源・南畑村ヨリ、和賀川ノ源・貝澤村ニ通ス、里道ナリ、二ヲ
 新道トス、和賀川ノ左岸ニ沿フ、三ヲ仙人峠トス、和賀川
 ノ右岸ニ沿フ、共ニ東和賀郡ヨリ西和賀郡ニ通スル縣
 道ナリ、此岐脈亦二岐ヲ派出ス、其一者ハ、暫ラク南岩手
 ト稗貫トノ郡界ヲ劃シ、更ニ分レ、一ハ南岩手ト紫波ト
 ノ郡界ヲ劃シ、北上シテ更ニ隆起ス、之ヲ南昌山ト云フ、

南昌山

此岐脈ヲ踰フル山路アリ、郡山ヨリ瀧名川ヲ沂リ、南川
 ノ上谷ニ出ツ、一ハ紫波・稗貫ノ郡界ヲ劃シ、透遞漸ク低
 レ、終ニ平原ニ盡ク、其第二者ハ、稗貫・東和賀ノ郡界ヲ劃
 シ、是亦透遞漸ク低ル、其三東和賀・膽澤ノ郡界ヨリ岐出
 スル者ハ、其郡界ヲ劃シテ東北ニ蜿蜒シ、駒嶽ヲ領ス、其
 四須川嶽ノ北ヨリ支分スル者ハ、膽澤・西磐井ノ郡界ヲ
 劃ス

南境脈

南境脈ハ、須川嶽陸前山ト云フニテハ、之ヲヨリ分派シ、東走シテ
 陸前境ヲ劃シ、透遞漸ク卑ク、終ニ北上河邊ニ盡キ、河ヲ
 挾ンテ再ヒ隆起シ、沂レテ北ニ向ヒ、漸ク高ク、陸前ノ本
 吉・氣仙ヲ界シ、物見山ニ至テ東ニ轉シ、終ニ海ニ入ル、其

國根山

盡頭ヲ尾崎ト云フ、脈中ノ高山ヲ室板山トス、陸前本吉・
 氣仙二郡ニ跨リ、西須川嶽ニ相對ス、蓬山トス、磐井・江刺・
 陸前氣仙三郡ニ跨ル、物見山トス、江刺・西閉伊・陸前氣仙
 三郡ノ交界點ニ在リ、遙カニ西駒嶽ニ相對ス、此山脈ヲ
 陸ヘテ陸前ニ往來スル通路數條アリ、左ニ枚舉ス
 第一 大門越ハ、達古袋村西郡ヨリ沼倉村陸前粟ニ出
 ヲ、捷路ニ過キス
 第二 陸前脇街道ハ、磐井驛古名一郡ヨリ岩崎驛陸前
 郡ニ出ツ、里道ナリ、宮城縣之ヲ縣道トス
 第三 東京街道ハ、磐井驛上ヨリ有壁驛陸前粟ニ通ス、
 國道第六ナリ
 第四 東脇街道ハ、涌津村西郡ヨリ石森村陸前登ニ出

ヲ、縣道ナリ、宮城縣之ヲ里道トス
 第五 馬籠路ハ、藤澤村東郡ヨリ馬籠村陸前本ニ出ツ、
 里道ナリ之ヲ石巻街道ト云フ
 第六 津谷川路ハ、津谷川村東郡ヨリ津谷川村陸前本
 ニ出ツ、里道ナリ
 第七 氣仙沼街道ハ、下折壁村東郡ヨリ氣仙沼驛陸前本
 郡ニ出ツ、縣道ナリ、宮城縣之ヲ里道トス
 第八 氣仙街道ハ、大原驛東郡ヨリ今泉驛陸前氣ニ出
 ヲ、縣道ナリ
 第九 上石峠ハ、伊手驛江刺ヨリ下大股村陸前氣ニ出
 ヲ、縣道ナリ、是亦氣仙街道ト云フ
 第十 上有住越ハ、細越村西郡ヨリ上有住村陸前氣ニ

出ツ、里道ナリ
 第十一 漢街道ハ、石塚山ヲ踰ヘ、釜石驛伊南郡ヨリ小白
 漢驛仙陸前ニ出ツ、縣道ナリ、往時此嶺ヲ以テ南部・仙
 臺ノ封境トス、山南唐丹ニ仙臺ノ國址アリ、山北平田
 ニ南部ノ國址アリ
 此山脈ヨリ支出スル岐脈ノ大ナル者二條アリ、其一ハ
 蓮山ヨリ岐シテ西ニ亘リ、磐井・江刺ノ郡界ヲ劃シ、北上
 河邊ニ至テ盡ク、其盡頭河岸ニ屹立ス、之ヲ男岡山ト云
 フ、山路アリ之ヲ横過ス、之ヲ石姥峠ト云フ、其山脚東磐
 井郡ニ入テ起伏シ、北上河ヲシテ彎曲ヲ爲サシム、就中
 名アル者ヲ東稻山トス、其南ニ烏兔森アリ、其二ハ物見
 山ヨリ岐シテ初暫ラシ北ニ向ヒ、江刺・西閉伊ノ郡界ヲ

畜ス、山路アリ横過ス、之ヲ五輪峠ト云フ、八首村江刺郡ヨ
 リ結貝村伊西郡ニ出ツ、里道ナリ、坂路上下二里許、次テ西
 ニ亘リ和賀・江刺ノ郡界ヲ劃ス、山路ニアリ之ヲ横過ス、
 一ヲ黒木峠ト云ヒ、一ヲ松坂山ト云フ、共ニ險絶ナリ

中央脈

中央脈ハ、北上河ノ水源中山峠ノ東ニ於テ、北境脈ヨリ
 岐分シ、初東南ニ連亘シ、北岩手・北九戸ノ郡界ヲ劃シ、次
 テ南ニ轉シ、蜿蜒蟠結シテ、北南岩手ト北中閉伊トノ郡
 界ヲ劃シ、早池峰山ニ至テ東南ニ向ヒ、中閉伊ト西閉伊
 トノ郡界ヲ劃シ、和山峠ノ北ニ至テ又南ニ轉シ、南閉伊
 ト西閉伊トノ郡界ヲ劃シ、遂ニ南境脈ニ連ナリ、以テ北
 上河ノ左朝流ト、直ニ外洋ニ注ク諸川トナシテ分、脈中

宮古川ノ水源ニ當ル大山團ヲ釜津田山ト總稱ス、群峯
 重疊兜神山最高シ、遙ニ西・和賀嶽ニ相對ス、其形兜蓋ニ
 似タルヲ以テ名ク、早池峯山ハ、岩手・稗貫・中閉伊・西閉伊
 四郡ノ交界點ニ在テ、一大山帯ヲ爲シ、流水ヲ四方ニ發
 ス、其北スル者ハ梁川ニ合シ、西スル者ハ稗貫川トナリ、
 東スル者ハ閉伊川ニ合シ、南スル者ハ猿石川トナル
 中央脈ヲ踰ヘテ北上河ノ濶域ヨリ馬淵川ノ上谷、及海
 岸諸川ノ濶域ニ往來スル山徑ヲ左ニ掲ク、其一葛卷越
 ハ、國道ノ驛次沼宮内北岩手郡ノ北ヨリ岐分シ、葛卷驛北岩手郡
 ニ通ス、行程七里、坂路羊腸、里道ナリ、其二石嶺山ハ、敷川
 驛南岩手郡ヨリ小本川ノ上流・門驛ニ出ツ、盛岡ヨリ小本
 達スル縣道ナリ、其三大倉峠ハ、梁川ノ上流梁川驛南岩手郡

ヨリ田代驛伊中閉郡ニ出ツ、盛岡ヨリ宮古ニ達スル縣道ナ
 リ、其四ハ駒木村伊西閉郡ヨリ小國村伊中閉郡ニ出ツ、其五ハ山
 口村伊西閉郡ヨリ小國村伊中閉郡ニ出テ前者ニ連ナル、其六和山
 峠ハ、山口村伊西閉郡ヨリ濱街道ニ出ツ、其七笛吹峠ハ、柏崎村
伊西閉郡ヨリ大槌驛伊南閉郡ニ出ツ、以上四道ハ皆里道ナリ、其
 八仙人峠ハ、森下驛伊西閉郡ヨリ大橋驛伊南閉郡ニ出ツ、縣道ナ
 リ、釜石街道ト云フ
 中央脈ハ、六條ノ岐脈ヲ東西ニ分出ス、其第一岐脈ハ東
 走シテ、閉伊・九戸ノ郡界ヲ劃シ、海濱ニ至テ盡シ、脈中ノ
 高山ヲ鏡山トス、之ヲ踰フル山路三條アリ、一ハ九界峠
 ト名ツケ、門驛伊北閉郡ヨリ江崎村伊北閉郡ニ出ツ、二ハ鏡山ノ
 東ヲ通シ、安家村伊北閉郡ヨリ上戸鎖村伊南閉郡ニ出ツ、以上二

平庭嶽

道共ニ里道ナリ、三ハ海岸ニ沿フ、普代驛伊北郡ヨリ宇部驛南九郡ニ出ツ、縣道ナリ、此岐脈又一脈ヲ北發シ、東北ニ彎曲シテ九戸南北ノ郡界ヲ限ル、脈中ノ高山ヲ平庭嶽トス、之ヲ踰フル山路亦三條アリ、一ハ平庭嶽ノ南ヲ通ス、關村伊南郡ヨリ葛卷驛北九郡ニ出ツ、二ハ久慈驛南九戸道ヨリ岐路ヲ分チ、夏井村ヲ經テ、此山脈ヲ踰ヘ大野驛北九郡ニ出ツ、以上二道共ニ里道ナリ、三ハ濱街道是ナリ、其第二岐脈ハ石嶺山ノ北ヨリ西ニ支出シ、岩手南北ノ郡界ヲ劃シ、丹藤川ノ上流ヲ隔テ、屹然聳拔シ、香漢池ノ池峯ト鼎足對峙シ、其高低亦互ニ相讓ラス、其南ニ岐山アリ、東南ニ釜津田山ニ連ナル、其第三岐脈ハ釜津田山ヨ

龍神山

リ東ニ支分シ、東走シテ北附伊ト中閉伊、及東閉伊トノ郡界ヲ劃シ、小本川ノ諸水ト閉伊川ノ諸水トヲ分隔ス、此岐脈ヲ踰フル山路三條アリ、一ハ雄鹿雄鹿山ト云フ、和井井内伊東郡ヨリ大川村伊北郡ニ出ツ、途路頗ル險ナリ、之中街道ト云フ、里道ナリ、一ハ南大嶽北大嶽ト云フ、磴道九折升降易カラス、攝待村伊東郡ヨリ中里村伊北郡ニ出ツ、里道ナリ、相傳フ昔時淺野長政賊九戸政實ヲ征伐シ、猶其餘黨ヲ搜索シ、此道ヲ經テ師ヲ班ヘスト云フ、其三濱街道ハ縣道ニシテ、小成山・茂師山ヲ升降ス、此二山攝待村ト小本驛トノ間ニ在リ、雄鹿雄鹿山ノ西ヨリ一岐ヲ南發シ、東閉伊ト中閉伊トノ郡界ヲ劃シテ、閉伊川邊ニ盡キ、閉伊川ノ上谷ノ東北ヲ擁ス、之ヲ踰フル山路二條ア

リ、一ハ夏屋村伊中郡ヨリ苅屋村伊東郡ニ出ツ、宮古ニ至
間道ナリ、本道ハ川ヲ繞フテ以テ洪水ノ時ハ通行ナ
ッ、故ニ行旅迂回シ之ニ由ル、二ハ桐木嶋ト云フ、古田村
中郡ト腹帶村伊東郡トノ中間ニ在リ、此嶺ヲ經テ往來ス、
宮古街道ト云フ、縣道ナリ、其第四岐脈ハ早池峯カサヲ山帯
トシテ、其西ニ支出シ、初暫ラク南岩手・稗貫ノ郡界ヲ爲
シ、岐シテ二派トナリ、一派ハ西北ニ向ヒ、南岩手・紫波ノ
郡界ヲ劃シ、北上河ヲ挾ンテ西・南昌山ノ脈ト相對ス、一
派ハ初西南ニ向ヒ、次テ西北ニ轉シ、以テ紫波・稗貫ノ郡
界ヲ劃シ、河邊ニ至テ盡ク、之ヲ踰フル山路一條アリ、釜
石街道ノ由ル處ニシテ縣道ナリ、其第五岐脈モ亦早池
峯ヲ根帯トシ、其南ニ派出シ、西南ニ斜伸シテ稗貫・西閉

伊ノ郡界ヲ劃シ、更ニ兩派トナリ、一ハ西北ニ向ツテ凸
張シ、以テ稗貫・和賀ノ郡界ヲ劃シ、一ハ東南ニ向ツテ急ニ
低レ、次テ再ヒ隆起シテ東和賀・西閉伊ノ郡界ヲ劃シ、以
テ猿石川ノ上谷ヲ擁ス、此岐脈ヲ踰フル山徑アリ、大迫
驛伊東郡ヨリ達曾部驛伊東郡ニ通ス、釜古街道ノ一部ニシ
テ縣道ナリ、又其兩派ヲ踰フル道數條アリ、皆里道ナリ、
其第六岐脈ハ和山峠ノ北ヨリ支分シ、蜿蜒北上シテ中
閉伊ト南閉伊、及東閉伊トノ郡界ヲ劃シ、其盡頭閉伊川
ヲ挾ンテ桐木嶋ニ相對シ、以テ閉伊川ノ上谷ヲ擁ス、之
ヲ踰フル山路一條アリ、小國村伊中郡ヨリ金澤村伊南郡ニ
出テ和山峠ノ道ニ會シ、濱街道ニ連ナル、此岐脈亦一派
ヲ分テ、東南閉伊ノ郡界ヲ劃シ、海岸ニ至リ濱街道ヲ横

截シ、海ニ入ル、其街道ヲ四十八坂ト名ツク、大小許多ノ
坂路アリ、人馬共ニ升降ニ苦ムト云フ

水論

灌域ノ區劃

中央大山脈州内ヲ貫キ、西境ノ大山脈ニ平行シ、其間ニ
一大長谷ヲ開キ、北上河其大坳道ヲ南流シ、兩大山脈ヨ
リ發スル諸水ヲ聚メ、陸前ノ東北部ヲ經過シテ海ニ歸
シ、又中央大山脈ヨリ發シテ東流スル諸水ハ、皆直ニ海
ニ注キ、州ノ西北隅一局ノ諸水ハ、輻湊シテ西流シ、羽後
ニ入テ能代川ト爲リ、東北隅ノ諸水ハ北流シ、陸奥ニ入
テ馬淵川ト爲ル、是ヲ以テ州内山河自然ノ形ニ從ヒ、大
別シテ大小ノ四灌域トス、北上河ノ灌域、東流シテ直ニ

海ニ注ク諸川ノ灌域、能代川ノ灌域、馬淵川ノ灌域是レ
ナリ

北上河ノ灌域

地勢總括

北上河ノ灌域ハ、州ノ大半ヲ占メ、南北岩手・紫波・稗貫・東
西和賀・西閉伊・江刺・膽澤・東西磐井ノ十一郡ヲ領シ、地形
南北ニ長ク、州内ノ名邑大概皆此地ニ在リ、周圍大山環
列、岐脈域内ニ蟠結シ、山地ハ礫礫多ク沿河ハ田圃闊ク、
沃壤數十里ニ連ナリ、村落密布シ、國道線之ヲ貫通ス

北上河ノ水路

北上河ハ、源ヲ御堂山ニ發シ、中山峠ノ山徑ヲ開キ、國道
線ヲ通シ、南流シテ沼宮内驛千六百一ヲ過ク、北境ノ驛

市ニシテ、稻繁ク、警察署アリ、次テ川口村ニ至テ左ニ丹
藤川ヲ受ケ、川崎村ニ至テ右ニ松川ヲ納レ、滋民驛ヲ過
キテ北岩手郡ニ入り、盛岡ニ至テ左ニ中津川ヲ合シ、右
ニ車石川ヲ併ス

盛岡

盛岡ハ、岩手縣廳氣仙角一郡ヲ除ク外、本州一郡及陸奥ノ
在ル處ニシテ、三陸第二ノ都會ナリ、戶數六千八百六十
四、人口三萬一千三百三十四、市街ハ北ヨリ南ニ亘リテ
中津川ニ跨ル、三橋ヲ架ス、上橋幅長三三間三尺、中橋幅長二
尺幅三下橋幅長三三間一尺、是ナリ、其北岸ヲ内丸ト云フ、
始審裁判所・治安裁判所・公園・勸業場・師範學校・醫學校・警
察本署・電信分局・郡役所ノ南、北岩手・紫波等アリ、其南岸ハ
肆店櫛比、物貨輻湊ス、西ニ北上河ヲ帶ヒ、二大橋ヲ架ス、

明治橋

明治橋 長八十四間 夕顏瀬橋 長六十四間 是ナリ、其地北上河
始メテ舟ヲ放ツ處ニシテ、國道線ノ要衝ニ當リ、支線四
達、西ハ秋田ニ通シ、西北ハ津輕ニ通シ、東ハ一ハ小本ニ、
一ハ宮古ニ通シ、南ハ釜石ニ通ス、城アリ、慶長年間、南部
利直ノ築ク處ニシテ、南部氏世々之ニ治シ、以テ明治維
新ニ至ル、城池猶存ス

郡山

次テ東安庭村ニ至リ、左ニ梨川ヲ容レ、紫波郡ニ入り、西
徳田村ニ至リ、車石川ノ分流徳田川ヲ受ケ、郡山一人口約
百ノ東ヲ過ク、國道ニ臨ム、驛市ニシテ、稻殷賑ナリ、古城
アリ、高水寺城又高清水城ト云フ、志波氏ノ繼ナリ、天正
十九年、南部信直兵三千ヲ率テ高清水城ヲ攻ム、敢テ拒
クモノナク、遂ニ斯波ノ六十六郷ヲ取り之ヲ領シ、志波

高水寺城

日詰城

蘇州岡古

花巻驛

氏滅亡スト云フ、驛北ニ日町新田ニ古城址アリ、日詰城
 又比爪ト號ス、古昔坂上田村磨ノ築ク處ナリ、其西宮手
 村ニ陣岡ノ古蹟アリ、康平年中、源義家ノ築ク處ナリ、其
 又西・舛澤村ニ蜂社ノ古蹟アリ、東鑑ニ曰フ、文治五年、源
 頼朝斯波郡ニ若陣ス、泰衡之ヲ聞キ驚テ比爪ノ館ヲ燒
 キ遁ル、此日頼朝陣ヲ陣岡及蜂社ニ張ルト即是ナリ、次
 テ大淵村ニ至テ右ニ瀧名川ヲ併セ、稗貫郡ニ入り、關口
 村ニ至テ、左ニ稗貫川ヲ領シ、次テ高木村ニ至テ、左ニ猿
 石川ヲ容レ、次テ北萬丁目村及里川口村ニ至テ、右ニ瀨
 川・豐澤川ノ二水ヲ受ク、二水間ニ花巻驛千五百約四アリ、
 北萬丁目村ニ屬ス、南北往來ノ驛路ニ當ル小都會ニシ
 テ西ニ支道ヲ分テ河ヲ横截ス、之ヲ高木渡ト云フ、里川

鳥屋崎

口村ヨリ高木村ニ渡ル、市街肆店櫛比シ、電信分局、郡役
 所稗貫、東和賀、古城址アリ、古ハ鳥屋崎城ト云フ、
 安倍頼時ノ墟ナリ、天正十八年、秀吉東征シ、八月、羽柴秀
 次・淺野長政鳥屋崎城ニ至リ、郡邑ヲ巡撫シ、淺野重吉ヲ
 本城ニ置テ守ラシメ、西歸ス、幾ナラス葛西・大崎ノ土寇
 蜂起シ、戍兵皆逃ル、和賀・稗貫ノ賊亦起リ、和賀ノ故主多
 田忠親等之ニ黨シ、土兵ヲ以テ本城ヲ圍ム、淺野重吉守
 禦力ヲ竭ス、賊徒日ニ加ハル、南部信直兵ヲ率テ土兵ノ
 後路ヲ絶テ、轉戰撃テ之ヲ破リ、城ニ入テ重吉ヲ携ヘ歸
 ルト、後修築シテ花巻城ト名ツケ、南部氏以テ南鎮トシ、
 北信愛ヲ置テ守ラシム、慶長五年、和賀ノ故主多田忠親
 亂ヲ作シ、本城ヲ攻ム、信愛力戰之ヲ却ク、高壘深壕稱シ

二子館址

黒澤尻驛

黒岩故城

テ險要トナス、遺址今猶存セリ、次テ和賀郡ニ入り二子
 村ヲ過ク、二子館址アリ和賀氏世々ノ居城ナリ、天正十
 八年、羽柴秀次ノ先鋒淺野長政諸處ノ城ヲ攻降スト此
 城モ其一ヲリ、次テ黒澤尻驛千人口約四ノ東ヲ過ク、國道
 線ニ臨ミ、西ニ岐路ヲ分ツ、横手街道ト云フ、羽後ニ通ス
 ル縣道ナリ、市街頗ル殷賑、警察署アリ、古館アリ北上河
 ノ西岸ニ在リ、康平五年、安倍貞任ノ弟黒澤尻五郎正任
 之ヲ守ル、源義家之ヲ攻ム、正任降ル、河ノ東岸黒岩村ニ
 黒岩故城アリ、慶長六年、城主黒岩月齋、和賀ノ故主多田
 忠親ニ黨シ、之ニ據テ亂ヲ作スト云フ、次テ下鬼柳村ニ
 至テ右ニ和賀川ヲ併セ、和賀郡ヲ去テ江刺・膽澤ノ郡界
 ナ割シ、西根村ニ至テ右ニ膽澤川ヲ受ク、村ニ金崎驛ア

金ヶ崎要害
八幡

櫻木ノ渡

黒石渡

水澤館

前澤驛

リ、又古壘ニアリ、一チ金ヶ崎要害ト號ス、一チ八幡館ト號
 ス、次テ左ニ江刺郡ノ諸水ヲ吞ミ、右岸ニ水澤驛二人口約
 百ヲ存ス、河岸ヲ距ル里餘ニ在リ、國道線ニ當リ、又岐路
 ナ分ツ、其東北、岩谷堂ニ至ル者ヲ盛街道盛前氣仙郡ト
 云フ、縣道ナリ、河ニ津渡アリ、櫻木、渡ト云フ、其東北、東磐
 井郡ニ通スル里道ニ在ル津渡ヲ黒石渡ト云フ、此地膽
 澤郡中ノ小都會ニシテ、市街殷賑、警察署、郡役所江刺郡
 治管ノ在ル所ナリ、古館アリ、水澤館ト云フ、相傳フ葛西
 氏ノ時、其臣八屋破鏡之ニ居ルト、伊達氏ニ至リ、其臣伊
 達駿河村儀之ニ居ル、次テ稍西南ニ向ヒ、膽澤・東磐井ノ
 郡界ヲ割シ、膽澤川ヨリ分流スル數派ノ溝渠ヲ合シ、前
 澤驛千人口約一ノ東ヲ過ク、此驛ヨリ西ニ岐路道ヲ分チ

目呂木渡

衣ノ關

薄衣渡

日形ノ渡

母體村ニ通ス、津渡アリ目呂木渡ト云フ、次テ東南ニ彎
 流シ、東西磐井ノ郡界ヲ劃シ、中尊寺村ニテ衣川ヲ併ス、
 中尊寺村ニ衣關ノ古蹟アリ、藤澤・西磐井ノ郡界ヲ限レ
 ル岐脈延ヒテ河畔ニ迫マリ、河畔ニ狹長ナル隘路ヲ存
 ス、是レ古關門ノ地ナリ、次テ今泉街道ヲ横截ス、津渡アリ
 柵ノ瀬、渡ト云フ、次テ狐禪寺村ニ至テ右ニ磐井川ヲ受ケ、
 次テ氣仙沼街道ヲ横截ス、津渡アリ薄衣渡ト云フ、次テ
 薄衣村ニ至テ左ニ砂鐵薄衣ノ二川ヲ領シ、次テ金澤・黃
 海・七日町ノ驛路ヲ横截ス、津渡アリ日形ノ渡ト云フ、三路
 皆縣道ナリ、黃海村ニテ左ニ黃海川ヲ合シ、永井村ニテ
 右ニ金龍川ヲ併セ終ニ本州ヲ去テ陸前ニ入ル、水源ヨ
 リ國境ニ至ル、水路五十三里六丁、濶九十間、下流陸前驛

盛岡以北ハ、國道線河ノ左岸ニ沿ヒ、盛岡以南ハ、國道線
 右岸ニ沿フ

右朝流

大小ノ朝流數條アリ、左ニ枚舉ス
 第一 松川ハ、源ヲ羽後境山脈ニ發シ、岩鷲山ノ北麓ヲ
 東流シ、田頭驛ニ至テ津輕街道ヲ横截ス、橋アリ松川橋
 長二間三尺、間ト云フ、圮橋ナリ、次テ赤川水路五里十六
 合シ、川崎村ニ至テ北上河ニ入ル、水路七里二十二丁、濶
 二十五間
 第二 栗石川ハ、上流ヲ葛根田川ト云フ、源ヲ源太嶽ニ
 發シ、南流シテ御駒嶽ヨリ發スル龍川ヲ合シ、栗石驛ニ
 至テ國見峠ヲ開ク所ノ溪流ヲ併セ、折レテ東流シ、是ヨ

厨川

リ下流舟楫ヲ通ス、西安庭村ニテ山伏峠ヨリ發スル南
 川水路約六里ヲ容レ、上太田村ニ至テ派流ヲ分チ、下厨
 川村ニ至テ古川ヲ受ク、下厨川村ニ厨川柵ノ址アリ、一
 ニ安倍ノ館ト云フ、康平五年、源頼義安倍貞任ヲ伐テ追
 フテ厨川柵ニ至リ之ヲ圍ミ、貞任以下ヲ斬ルト即是レナ
 リ、次テ本宮村ニテ北上河ニ入ル水路約八里十丁、濶十
 二間、其派流ハ、東南ニ流レテ紫波郡ニ入り、數村ヲ灌漑
 シ、東徳田村ニ至テ北上河ニ入ル、水路三里七丁、濶八間
 第三 瀧名川ハ、源ヲ土館村瀧ノ山中ニ發シ、山西・南
 川ノ上谷ニ通スル山徑ヲ開キ、東流シテ犬淵村ニ至リ
 國道ヲ横截ス、橋アリ八年橋長三十四間ト云フ、圮橋ナリ、次
 テ北上河ニ入ル、水路約五里、濶二十二間

第四 瀬川ハ、源ヲ鍋割山郡稗ニ發シ、東流シテ東宮野
 目村ニ至リ、國道ヲ横截ス、橋アリ乙亥橋長十二間 幅一
 云フ、圮橋ナリ、同村ニテ北上河ニ入ル、水路約五里、濶十
 五間
 第五 豐澤川ハ、源ヲ那米床山岩手郡稗ニ發シ、和賀ニ發シ、稗
 貫郡西境ノ諸溪流ヲ集メ、東流シテ里川口村ニ至リ、國
 道ヲ横截ス、橋アリ豐澤橋長五十四間 幅三十三尺ト云フ、圮橋ナリ、
 同村ニテ北上河ニ入ル、水路約十里、濶百間
 第六 和賀川ハ、右朝流中最大ナリ、源ヲ西境脈中和賀
 嶽ニ發シ、初西和賀郡ニ在テ南流シ、左右ノ諸山ヨリ出
 ツル數多ノ溪水ヲ集メ、漸シ大川トナリ方向ヲ東ニ轉
 ス、和賀郡ハ四境山ヲ繞ラシ別小世界ヲ爲ス、之ヲ澤内

ト惣稱ス、地學ニ所謂上谷ノ地是レナリ、其北部ハ一條ノ里道アルノミ、之ニ由テ流ヲ沂リ、山伏峠ヲ踰フレハ岩手郡ニ出ツ、其南部ハ縣道二條アリ、川ノ兩岸ニ沿フ、西白木峠ヲ踰フレハ羽後ニ出テ、東・仙人峠ヲ踰フレハ東和賀郡ニ出ツ、河流仙人峠ノ麓ヲ流レ、東和賀郡ニ來テ猶同方向ヲ逐ヒ、横川目村ニ至テ、郡ノ西北隅ヨリ來ル尻平川ヲ合ス、此川後藤野東西北凡三里ト名ツクル曠野ヲ過ク、次テ同村ニテ郡ノ西南隅ヨリ來ル夏油川ヲ併ス、此川岩崎村ヲ過ク、村ノ北東ノ山脚ニ故城アリ、岩崎城ト名ツク、天正ノ末頃ハ和賀ノ故主多田氏ニ屬ス、多田滅亡後南部氏ニ歸シ、廢城トナル、慶長五年、多田忠親天下ノ擾亂ニ乘シ、舊領ヲ復サント欲シ先此城ヲ修メ、

岩崎城

兵ヲ起シテ北信愛南部ヲ花卷城ニ攻メ克クテ、走テ此城ニ入ル、南部利直時ニ最上前ニ在リ、警ヲ聞テ兵ヲ回シ、十月此城ヲ攻ム、雪ニ隔テラレテ罷ム、翌年利直再ヒ忠親ヲ此城ニ伐テ、攻戰月ヲ踰フ、忠親倍困ム、伊達政宗兵ヲ出シテ之ヲ救フ、利直迎戰テ大ニ政宗ノ兵ヲ破ル、四月利直風ニ乘シ火ヲ放テ城ヲ燒ク、忠親出亡シ、城遂ニ陷ル、次テ下鬼柳村ニ至リ、國道ヲ横截ス、橋アリ九年橋長九十四間ト云フ、圮橋ナリ、同村ニテ北上河ニ入ル、水路約二十五里二十八丁、濶百十間

第七 膽澤川ハ、源ヲ膽澤郡西南隅ノ山中ニ發シ、東北ニ流レ、西境ノ大山脈ヨリ發スル諸水ヲ集メ、其一水下嵐江村ヲ過クル者ハ、五里峠ノ山徑ヲ開ク次テ數派ノ

溝渠ヲ鑿テ、灌溉ニ便ニス、其諸水東流シテ皆北上河ニ
歸ス、次テ永澤川ヲ合シ、西根村金崎驛ニ至テ北上河ニ
入ル、水路約十五里二十七丁、濶六十間

衣川橋址

小松館

第八 衣川ハ、源ヲ高槍能山郡ニ發シ、東流シ上衣川
村ヲ過ク、衣川柵ノ遺址アリ、安倍貞任ノ築ク所ナリ、次
テ下衣川村ヲ過ク古壘アリ、小松館ト云フ、傳云フ安倍
貞任ノ叔父官照ノ居ル所ナリト、康平五年、源賴義義家
之ヲ攻メ火ヲ虜營ニ縱テ貞任等ヲ走ラスト是ナリ、次
テ磐井ノ郡界ニ於テ國道ヲ横截ス、橋アリ、衣川橋長七
四間ト云フ、圮橋ナリ、次テ磐井郡ニ入リ、中尊寺村ニ至
北上河ニ入ル、水路約七里、濶四十間、中尊寺村ニ中尊寺
ト號スル古刹アリ、其金色堂ハ今猶其舊摸ヲ觀ルニ足

高館古蹟

和泉城址

ル、中尊寺ノ東ニ高館ノ古蹟アリ、藤原清衡ノ築ク處ニ
シテ、一ニ判官館ト呼フ、源義經ノ戰死セシ地ナリ、又西
北戸河内村ニ和泉城址アリ、貞任ノ族兄成道ノ據リシ
古壘ナリ、當時之ヲ琵琶柵ト云フ、後泉三郎忠衡之ニ居
リ和泉城ト稱ス

磐井古城

第九 磐井川ハ、一ニ一關川ト云フ、源ヲ須川嶽ニ發シ、
東流シテ磐井千人約四百ヲ過ク、舊一關ト稱ス、本州南境
ノ鎮鎭タリ、古城址アリ、初伊達宗勝之ニ居リ、後田村氏
世々之ニ治シ、以テ明治維新ニ至ル、廢藩置縣ノ時、一關
縣ヲ置ク、三陸屈指ノ都會ナリ、其地道路ノ幅濶點ヲ占
メ、磐井川ニ跨ル橋アリ、磐井橋長四十四尺ト云フ、木橋
ナリ、其北ニ山目ノ市街アリテ相接シ、共ニ殷賑ナリ、始

山ノ目

審裁判所・電信分局・警察署・郡役所東四管治スニアリ、次テ
狐禪寺村ニ至リ北上河ニ入ル、水路約十一里、濶四十五
間、磐井ヨリ北上河落合ニ至ル迄、一里間舟楫ヲ通スヘ
シ、康平五年九月、貞任官軍ノ兵寡キヲ見、精兵八千ヲ以
テ來リ襲フ、賴義逆戰大ニ之ヲ破リ、走ルヲ追テ磐井川
ニ至リ、清原武則ヲシテ、敢死ノ士八百ヲ以テ追撃セシ
ム、武則更ニ死士五十ヲ據ヒ、間道ヨリ貞任ノ營ヲ焚キ、
内外合撃ス、虜軍大ニ亂レ走テ衣川ノ險ニ保ムト云フ
第十 金澤川ハ、源ヲ陸前栗原郡ニ發シ、本州ニ來テ東
流シ、金澤・涌津ノ二驛間ヲ過キ、日形村ニ至テ北上河ニ
入ル、州内ヲ經過スル水路約四里、濶十五間

左朝流

左朝流亦大小數條アリ、左ニ枚舉ス
第一 丹藤川ハ、源ヲ姫神嶽ノ東南溪ニ發シテ、初、東北
ニ流レ小本街道ヲ通シ、藪川村南岩ノ諸溪水ヲ集ム、其
一水中央山脈ヨリ發スル者ハ、石嶺山ノ山徑ヲ開ク、次
テ西北ニ向ヒ川口村ニ至テ北上河ニ入ル、水路約十五
里、濶二十間
第二 中津川ハ、源ヲ姫神嶽ノ南ナル岐山ニ發シ、丹藤
川ノ上流ト相背馳シ、中央山脈ヨリ出ツル諸水ヲ集メ、
盛岡市街ヲ貫キ、北上河ニ入ル、水路約七里十丁、濶三十
間
第三 梁川ハ、源ヲ梁川村ノ山中ニ發シ、大倉峠宮古街道ヲ
開キ、縣道ニ沿フテ西流シ、根田茂川ヲ併セ、東安庭村ニ

至リ北上河ニ入ル、水路約六里三十一丁、濶三十間

第四 紫波郡ノ諸川ハ、皆源ヲ中央脈ニ發セス、其岐山

ヨリ出ツルヲ以テ大川ヲ爲サス、其稍大ナル者ヲ乙部

河村館

川・彦部川トス、彦部川大卷村ヲ過ク、村ニ館址アリ、河村

館ト云フ、文治五年、源頼朝河村四郎秀清ヲシテ、大卷ニ

城キ世々之ニ居ラシムト云フ

第五 稗貫川ハ、上流ヲ嶽川ト云フ、源ヲ早池峯山ニ發

大迫古館

シ、山間ヲ西南ニ流レ、大迫千七百約一ニ至リ、縣道ヲ横截

ス、橋アリ、大橋幅十二間ト云フ、木橋ナリ、大迫古館アリ、

天正ノ頃ノ城主ヲ大迫右近ト云フ、天正十九年、九戸ノ

亂ニ賊ニ應ジ、追討ノ軍至ルニ及ンテ城ヲ遁レ、隠ル、其

後右近ノ二子慶長五年ノ亂ニ乘シ、舊領ヲ復サントシ

此城ヲ攻メ成ラス、此地ニ於テ中居川ヲ併シ始メテ稗

貫川ノ稱アリ、二川合シテ東流シ、龜森村ヲ過ク、村ノ山

上ニ龜森古館アリ、次テ關口村ニ至リ、北上河ニ入ル、水

路七里二十五丁、濶二十五間

第六 猿石川ハ、左朝流中最大ナリ、源ヲ早池峯山ノ南

溪、西開ニ發シ、初南流シ、上附馬牛村ニテ荒川、濶十里

ヲ受ケ、次テ駒木村ニテ小河原、濶三里、濶八里、濶二十

レ、遠野ノ人口約ニ至リ、仙人峠ヨリ出ツル、早瀬川、濶四十

七丁、濶及貞任山ヨリ出ツル、來内川、濶二丁、濶三十、二

水ヲ併ス、遠野ハ、舊南部氏支族ノ采邑ニシテ、海岸往復

ノ要路ニ當リ、支線輻湊シ、市街頗ル殷賑ナリ、警察署、郡

役所、西開ヲ伊南開ス、伊アリ、是ヨリ西ニ轉シ、下鱒澤村ニテ

小友川水三丁瀨三里間十合、西閉伊郡ヲ去テ和賀郡ニ入
 リ、北ニ向ツテ瀨洞シ下宮守村ニ至テ、再ヒ西閉伊郡ニ
 來リ達會部川水瀨路五里間十八ナ併セ、又西ニ轉シテ和賀
 郡ニ入り十二ナ村ヲ過キ、彎曲シテ西北ニ向ヒ稗貫郡ニ
 入テ高木村ニ至リ北上河ニ入ル、水路十七里二丁、瀨三
 十間、

岩屋堂

第七 廣瀨川ハ、源ニアリ共ニ和賀郡界ノ山中ニ發シ、
 二流相會シテ西南ニ流レ岩屋堂千人約三ナ過ク、江刺
 郡中ノ小都邑ニシテ、背後山ヲ負ヒ前ハ平田ヲ帯ヒ眺
 望絶佳ナリ、古館アリ岩屋堂館一ニ柄酌城ト名ツク、古
 昔葛西氏ノ臣、江刺信恒之ニ居リ、後寛文中、伊達氏其
 臣伊達宗規ニ與ヒ子孫相繼テ之ニ居レリト云フ、次テ

鳥海ノ橋

北上河ニ入ル、水路四里十三丁、瀨二十五間
 第八 人首川ハ、源ヲ西閉伊郡界ノ山中ニ發シ五輪峠
 ナ開ク、閉伊郡ニ通スル間道ナリ、西流シテ伊手川水八里
 瀨二十ナ受ク、其上流ニ伊手驛アリ、岩屋堂ヨリ上石峠
 ナ經テ、陸前氣仙郡ニ通スル縣道ノ驛次ナリ、二流羽田
 ニテ相會シ北上河ニ入ル、水路六里二十三丁、瀨四十間
 第九 砂鐵川ハ、源ニアリ一チ中川ト云ヒ、江刺郡ニ通
 スル山路ヲ開キ鳥海村ヲ過ク、鳥海、柵ノ古蹟アリ、天喜
 五年、安倍頼時伏ニ陥リ矢ニ中リ鳥海、柵ニ歸テ死ス、然
 レハ余黨未タ服セス、其後頼義義家衣川ノ柵ヲ破ル、貞
 任遁レテ鳥海、柵ニ入ル、頼義追撃數柵ヲ連破シ進テ鳥
 海、柵ヲ拔クト即是レナリ、一チ大原川ト云フ、大原川ハ氣

天原

千原

仙街道ヲ開キ、大原驛一人口約ヲ過シ、山間ノ驛次ニシテ市街稍繁盛ナリ、二流相會シテ西流シ、長坂驛ノ南ニ至テ折レテ、南流シ、薄衣村ニテ北上河ニ入ル、水路十里二
 十一丁、濶十八間
 第十 薄衣川ハ、源ヲ室根山ニ發シ、西流シテ千原驛口一約二千ヲ過シ、氣仙沼郡本街道ノ驛次ニシテ市街稍繁盛警察署アリ、傳云フ、源義家安倍貞任ヲ伐シ時、馬千疋ヲ繫シ因テ以テ邑ヲ名ツシト、云テ薄衣村ニ至リ北上川ニ入ル、水路五里二十五丁、濶十二間、此川奥玉川又千原川ト云ヒ、至ル處其地ヲ以テ稱セラル
 第十一 黃海川ハ、上流ヲ保呂羽川ト云フ、源ヲ保呂羽村ノ山中ニ發シ、黃海村ニ至テ北上河ニ入ル、水路五里

七丁、濶二十間

東流シテ直ニ海ニ注シ、諸川ノ濶域
 地勢物括

此濶域ハ、中央大山脈外海岸一帶ニシテ閉伊東南北中四郡南九戸全郡及北九戸ノ一部ヲ領シ、地勢中央大山脈ノ枝派錯出シ、到ル處山ナラサルハナシ、其山脚海ニ入り數多ノ岬灣ヲナス、從テ長港多シ、海ニ沿フテ一條ノ道路アリ、濱街道ト云フ、漁鹽ノ利頗饒カナリ

諸川ノ水路

諸川僅ニ一二ヲ除クノ外ハ、皆水源近キヲ以テ溪流奔湍ニ過キス、左ニ北ヨリ順序シ之ヲ枚擧ス
 第一 玉川ハ、州ノ最北ニ在リ、源ヲ二森ニ發シ、種市村

コテ海ニ入ル、水路三里、濶二十間

第二 大野川ハ、源ヲ大野驛ノ南ニ發シ、東北ニ流レ有
家村ニテ海ニ入ル、水路七里十丁、濶十二間

第三 久慈川ハ、源ヲ南北九戸郡界ノ山中ニ發シ、東流

久慈

シ下大川目村ニテ長内川ヲ合ス、二流ノ匯處ニ久慈驛

アリ、州ノ東北陸ノ繁邑ナリ、警察署・郡役所南北九戸郡ニ

アリ、次テ門前村ニテ海ニ入ル、水路八里十二丁、濶四十

間

第四 城内川ハ、宇部ヲ過キテ海ニ入ル、水路二里二十

七丁、濶十五間、河口ノ北ニシテ大洋ニ突出スル大岬ヲ

三崎ト云フ、以テ久慈野田ノ二灣ヲ相隔ツ、灣中暗礁多

ク碇泊ノ利ナシ

第五 普代川ハ、源ヲ安家村ノ山中ニ發シ、一ニ安家村

ト云フ、普代村ニテ海ニ入ル、水路五里十七丁、濶八間

第六 小本川ハ、源ヲ岩手郡界ノ山中ニ發シ、石嶺峠ヲ

開キ、縣道ヲ溯テ東流シ、釜津田川ヲ合シ、岩泉驛ヲ過ク、

警察署アリ、次テ小本驛ヲ過キ海ニ入ル、水路十九里、濶

五十間、小本驛ニ橋アリ、小本橋長三十間ト云フ、縣道ヲ

通ス

第七 閉伊川一名宮古川ハ、源ヲ釜津田山ノ諸溪水ニ

資テ、南流シ大倉峠ヨリ發スル一溪流ヲ受ク、此溪流ニ

沿テ縣道ヲ開ク、次テ川井村ニ至リ、小國川ヲ合シ、桐木

峠ノ麓ヲ過キ、中閉伊郡ヲ去ル、中閉伊郡ハ此川ノ上谷

ニシテ郡界悉ク山脈ヲ繞ラス、是ヨリ出ツル衆水悉ク

岩泉
小本驛

宮古

浦

一河ニ幅淺ス、故ニ頗ル大川トナリ、茂市村ニ至テ苜屋川ヲ併セ、宮古驛千一口約四ニ至リ縣道ヲ横截ス、橋アリ新晴橋間幅七三間ト云フ、圮橋ナリ、次テ宮古灣ニ入ル、水路二十四里、濶五十間、海岸ノ諸川中最大ナル者ナリ、宮古港一東丁深一里二初三四尺東ニ北ニ向フハ船舶幅淺ノ地ナリ、市街ヲ浦鉾崎千一口約三ト云フ、宮古ノ市街ト共ニ繁盛ノ區ナリ、治安裁判所・警察署・郡役所關伊東中北三・電信分局・病院・學校等アリ

第八 津輕石川ハ、東閉伊郡東南境ノ山中ニ發スル溪流ナリ、津輕石驛ニテ宮古灣ニ入ル、水路三里十五丁、濶十一間、灣ノ東ヲ擁シ、東北ニ突出スル岬ヲ閉伊崎ト云フ、岬巖相連ル二里鉾崎ト相對ス

飯岡

第九 山田川亦溪流ナリ、飯岡驛三千口約ニテ山田港東深一里五初五尺北東ニ向フ丁ニ入ル、水路一里二十丁、濶十一間、港ノ東ニ挺出スル岬ヲ龜崎ト云フ、長磯崎ト相對シ港ヲ擁ス、港内碇泊ニ便ナリ

第十 大槌川ハ、大槌村ニテ海ニ入ル、水路七里十二丁、濶十三間

第十一 小槌川ハ、小槌村ニテ海ニ入ル、水路五里、濶十七間

第十二 鵜住居川ハ、鵜住居村ニテ海ニ入ル、水路八里、濶二十五間、鵜住居村ノ東北ニ斜伸スル岬ヲ箱崎ト云フ、野島崎ト相對シテ内海ノ口ヲ包ミ大槌ノ灣ヲナス、灣内廣濶ナリト雖水淺シテ泊舟ニ便ナラス、以上三

川曾此灣ニ注ク

石橋

第十三 甲子川ハ、仙人峠ヲ開キ縣道ニ沿フテ流レ甲子村ヲ過ク、礫山ヲ以テ其名著ハル、次テ釜石港東丁四南北六東二丁深五ニ入ル、水路五里十二丁、濶二十間、釜石口約四千ハ市街般賑、警察署・電信分局・礫山局アリ、尾崎ハ曲出シテ港口ヲ擁シ海岸極メテ深シ、港ノ中央ニ晴巖ニアリ、南北相對シ相距ル三十三間トス

能代川ノ灌域

能代川ノ灌域ハ、鹿角郡一圓ニシテ州ノ西北ニ在リ、地形狹長四圍皆山ニシテ、土地最荒瘠ナリ
能代川一名米代川ハ、源ヲ陸奥二戸郡根石山田山ニ發シ、國境脈ヲ横截シ、鹿角街道ヲ開ク、天正年中、南部信直

花輪

毛馬内

秋田ト矛盾シ兵ヲ率テ、鹿角口ヨリ入ルト即此險路ナリ、次テ曲折シテ北ニ向ヒ花輪四口約ヲ過ク、鹿角郡中南方ノ小中心ヲ占メ津輕街道ノ驛次市タリ、市街稍般賑、郡役所鹿角郡秋田アリ、次テ左右ノ澗谷ヨリ出ツル衆水ヲ合シ、小枝指村ノ西ヲ過ク、古城址アリ小枝指ノ館ト云フ、往古小枝指又右衛門此ニ居ルト、次テ毛馬内川ヲ併ス、此北境ノ諸山ヨリ發シ、北流シテ毛馬内約八口百五ヲ過ク、鹿角郡中北方ノ小中心ヲ占ム、市街稍富庶ナリ、其南ニ至テ大湯川ト共ニ能代川ニ入ル、能代川水勢益大トナリ、曲折西流シ羽後ニ入リ能代港ニ至テ海ニ入ル、下流羽後縣州内ヲ經過スル水路六里十丁、濶三十間

馬淵川ノ灌域

馬淵川ノ灌域ハ、州ノ東北ニシテ北九戸郡ノ過半ヲ領
 ヲ、二水流アリ、一ハ南ニ在リ即馬淵川ノ水源ナリ、一ハ
 北ニ在リ輕米川ト云フ、馬淵川ノ右朝流ナリ、陸奥三戸
 郡八戸ニ至テ二水相會シ海ニ入ル、左ニ二水ヲ揭ク
 其一 馬淵川ハ、源ヲ北閉伊郡界ノ山脈ニ發シ、北流シ
 テ九界峠ノ山徑ヲ開キ小本川ノ上谷ト此川ノ上谷ト
 ナ通ス、次テ葛卷村ニ至テ一溪水ヲ受シ、此溪水中央山
 脈中ニ山徑ヲ開キ、北上河ノ上谷ト此川ノ上谷トヲ通
 ス、次テ黒森山ノ麓ヲ繞リ陸前二戸郡ニ入ル、州内ヲ經
 過スル水路及濶共ニ未詳
 其二 輕米川ハ、源ヲ南九戸郡界ノ山ニ發シ、北流シテ

輕米村ヲ過シ里道ノ輻湊點ヲ占ム、次テ瀬月内川ヲ受
 ク、猶北流シテ陸奥三戸郡ニ入ル、州内ヲ經過スル水路
 七里十五丁、濶二十間

交通路

國道六

函館街道 宮城縣陸奥國二戸郡小野有壁ニ驛
 路通スル

宮城縣界	丁一里	十二	十六	間一	磐井	丁三	五里	十二	十九	間八	前澤	丁二	八里	丁二
水澤	丁一	四里	十二	十九	間七	金崎	丁二	十里	十六	間十二	黒澤	丁三	八里	丁里
花卷	丁四	十里	十二	十九	間七	郡山	丁四	十里	十五	間十二	盛岡	丁四	十里	丁里
澁民	丁二	四里	十二	十九	間七	沼宮	丁四	十里	十五	間十二	陸奥	丁四	十里	丁里
三十九里	六丁	四間				内	丁四	五里	十三	間三	小	丁四	十里	丁里

磐井丁四里三十四間 金澤丁一里三十四間 涌津丁五里四十九丁 宮
城縣界合六里二十二丁四十二間

盛街道 仙崎郡下大股澤 伊手丁五里二間十五 陸前
水澤丁一里七 岩谷堂 五十里七間丁 伊手丁五里二間十五 陸前

國下大股合十里三十一丁

今泉街道 氣仙郡今泉 招澤 三十里一丁 大原

磐井 五里一六間丁 長坂 二里一六間丁 招澤 三十里一丁 大原

三十六里八間丁 陸前國今泉合十四里二十四丁二十五間

沿革零史

陸中國ハ、本ト陸奥ニ屬ス、明治元年十二月、陸奥ヲ分ツ

テ五國トス、本州其一ヲリ、古國府ヲ陸前宮城郡ニ置キ、

鎮守府ヲ陸前郡ニ置キ、

在八幡村ニ設ク、永承中、州人安倍頼

時六郡 櫻井 和賀 岩手 劫奪シテ衣川ニ據リ叛ス、源賴

義州守ヲ以テ鎮守府將軍ヲ兼テ、王命ヲ以テ之ヲ討シ、

數年ニシテ賊盡シ平ラシ、清原武則從テ功アリ、因テ鎮

守府將軍ニ拜シ、六郡ヲ領シ子武貞ニ傳フ、寛治中、武貞

ノ子家衡、其叔父武衡ト俱ニ亂ヲ作ス、頼義ノ子義家父

ノ任ヲ襲キ伐テ之ヲ平ラケ、家衡ノ異父兄藤原清衡ヲ

シテ州ヲ守ラシム、清衡六郡ヲ領シ鎮守府將軍ニ任シ、

陸奥出羽ノ押領使トナリ平泉郡磐井ニ居リ、遂ニ奥羽二

州ヲ攘取ス、清衡ノ孫秀衡州守ニ任シ、盤踞益堅シ子泰

衡嗣シ、文治五年、源賴朝泰衡ヲ誅シ、高西清重ヲ留守ト

シテ二州ヲ綏撫シ、糠部・磐手・閉伊・鹿角・津輕五郡ヲ以テ、

其將南部光行ニ與ヘ、糠部郡今ナリ三月手加崎町今ナリ三月

ニ居ラシメ、二十餘世ニ傳フ、建武中興、源顯家州守ニ任
 ヲ鎮守府大將軍ヲ兼テ、義良親王ヲ奉シテ本州及出羽
 ナ兼知ス、足利氏ノ反スル族弟家兼ヲ以テ探題トナシ、
 陸前加美郡大崎城ニ家兼ノ從子斯波家長ヲ州守トシ、
 居リ大崎氏ト稱ス、紫波郡高水寺城ニ居ラシム、二人皆官軍ニ抗シテ敗死
 ス、既ニシテ顯家西上シテ戰死シ、本州大半尊氏ニ歸ス、
 元中八年、將軍義滿本州及出羽ヲ以テ、鎌倉管領足利氏
 滿ニ隸ス、應永中氏滿ノ子滿兼、其弟滿貞ヲ本州ノ管領
 トナシ、十八年滿兼ノ子持氏南部守行ヲ守護トス、永享
 ノ末、滿貞持氏ニ黨シテ敗死シ、州内統一スル所ナシ、天
 文中將軍義晴伊達晴宗ヲ以テ探題トナス、是時ニ方テ、
 州内及隣國ノ諸氏互ニ相吞噬シ、天正ノ末南部信直斯

波氏ノ地ヲ併ス、天正十八年、豐臣氏東征シ、蒲生氏郷ヲ
 シテ本州及出羽ノ守護ヲラシメ、南部氏ノ封ヲ定メ、高
 西ノ地磐井、藤澤、江刺及陸前トシテ没シテ木村秀俊ニ賜
 フ、翌年土寇蜂起シ、秀吉秀次ヲ遣リ之ヲ征ス、南部信直
 從フテ功アリ、紫波、和賀、稗貫三郡ヲ加賜シ、秀俊ノ地ヲ
 奪テ伊達政宗ニ賜フ、慶長二年、南部信直盛岡城ヲ築キ、
 福岡陸奥二郡ヨリ徙ル、關原役後、南部氏ノ封疆故ノ如ク
 ニシテ、州内過半ヲ領シ、世々盛岡ニ治ス、南境三郡江刺、藤澤、
 井磐井ハ伊達氏ニ屬シ、初、伊達宗勝ヲ一關ニ置テ之ヲ鎮ス、
 寛文年中、田村宗良ヲ置テ仙臺ノ支封トシ、世々之ニ治
 ス、明治紀元、王師北征南部、田村二氏ノ封ヲ削リ、尋テ江
 刺、藤澤、九戸三縣ヲ置キ、九戸ヲ三戸ト改メ、既ニシテ之

ナ江刺ニ併セ、盛岡藩ヲ廢シテ縣トナシ、又悉ク合併シ
テ盛岡縣ヲ置キ、終ニ改稱シテ磐手縣ト云フ、而シテ軍
管ハ、第二軍管仙臺鎮臺ニ隸シ、第四師管ニ屬ス

陸軍士官學校版權所有
明治廿一年十月二十五日印刷
同 年十一月二日出版
(定價金拾參錢)

東京橋區山下町六番地
東京府士族

發行者 宇津木信夫

同 區同 町七番地
內外兵事新聞局

印刷者 右 同人

東京

發行所 內外兵事新聞局

版權登錄

